

年中児保育案

ほし組 男児17名 女児14名 計31名
保育者 坂元 久美子 猿渡 晃子

1 幼児の実態

子どもたちは、友だちとのかかわりが広がり、気の合う友だちはもちろん、同じ遊びに興味をもつ友だちとも仲間になって、これまでよりも長い時間、楽しく一緒に遊ぶようになってきた。友だちと一緒に遊ぶ中で友だちのよさに気付いたり、新しい遊びを知ったりして子ども同士で遊びを広げていけるようになってきている。意見がぶつかり合いうこともあるが、自分の思いを分かってもらえるように伝えようとする姿や、友だちの思いを分かろうとする姿が見られる。

園庭では、冬の寒さの中でも元気に体を動かして遊ぶ子どもが多く見られる。長縄や短縄、竹馬を使って遊び、体が温くなる心地よさや、繰り返して挑戦しながら以前よりも上手になった喜びを感じているようだ。また、かくれんぼや鬼ごっこを通して、友だちや年長児、保育者とルールのある遊びの面白さも味わっている。ウサギに餌をあげたり、触ったりする触れ合いを通して生き物の温かさを肌で感じたり、育てているチューリップやカブ、ブロッコリーに水を掛けて「大きくなってきたよ」など、発見したことを保育者や友だちに伝えながら成長を楽しみにするなど、動植物への興味・関心も高まっている。また、冬ならではの自然にも興味をもち、冷たい空気や風を感じながら遊ぶ姿が見られる。

室内やプレイルームでは、空き箱やロールペーパー芯を使った製作を楽しみ、自分のイメージをもちながら素材を組み合わせてロボットや剣など、遊びに使う道具をつくっている。ごっこ遊びでは、友だちと話し合っただけで役割や遊びに必要なものを決め、自分たちの描いているイメージを伝え合いながら、役になりきったり道具を準備して遊ぶ楽しさを味わっている。大型積み木で迷路や秘密基地をつくり、自分でつくったものを持ち込んで友だちと一緒に遊ぶ姿も見られる。

このように、園生活が充実し、友だちとのかかわる楽しさを存分に味わいながら、自分たちで遊びを進めている子どもたちである。

2 遊びの価値とねらい

子どもたちは、自分たちで遊びを見付け、友だちとのかかわることを存分に楽しんでいる。

そこで、戸外での遊びを通して、集団で遊ぶときのルールを友だちと一緒に守ろうとしながら遊ぶ楽しさや、自分の目標に向かって繰り返して挑戦し、達成感や満足感を味わえるようにしたい。長縄や短縄、竹馬を使って体を動かす遊びを通して、繰り返して挑戦しながら以前よりも上手になった喜びを感じることができたり、寒い中でも体を動かす心地よさを味わえたりできる遊びとして大切にしたい。

また、室内でのごっこ遊びを楽しみながら、自分のもつイメージを友だちに分かるように伝え合い、遊びをもっと楽しもうとする姿を大切にしたい。遊びに必要なものをつくったり、役になりきったりして友だちと同じイメージの中で遊びながら、自分の思いが相手に伝わり、相手の話や思いが分かる楽しさや喜びを感じ、次第に伝え合うことができるようになっていく。

こうした遊びは、遊びや友だちとのつながりをますます深め、友だちと一緒に共通の思いや目的をもって楽しく遊ぶ充実感へとつながっていくものであると考える。

3 この期の保育について

(1) ねらい

- 友だちと思いを出し合いながら、楽しく遊ぼうとする。
- 戸外で元気に遊びながら、自然の移り変わりを感じる。

(2) 内容

- 友だちとイメージを伝え合いながら、遊ぼうとする。
- 簡単な役割分担をしながら、ごっこ遊びを楽しむ。
- いろいろな素材や用具を使い、遊びに必要なものをつくって遊ぶ。
- 氷や霜柱などに興味をもち、触れたり、集めたりして遊ぶ。
- 冬の健康な生活の仕方を知り、自分のことは自分でしようとする。

4 本日の保育について

(1) ねらい

- 友だちと一緒に遊ぶ楽しさを存分に味わう。
- 戸外で元気に体を動かして遊ぶ。

(2) 内容

- 友だちに自分の思いや考えを工夫して伝えたり、友だちの思いや考えを聞いたりしながら一緒に遊ぶ。
- 縄跳びや竹馬、鬼ごっこなど、戸外で友だちと一緒に体を動かして遊ぶ。
- 役割分担をしながら、ごっこ遊びやルールのある遊びを楽しむ。
- 身近な素材を使って自分のイメージしているものをつくって遊ぶ。
- 手洗い・うがいや衣服の調整などを自分から進んで行おうとする。

(3) 保育に当たって

ア 人とのかかわり

- 友だちと一緒に思いを出し合いながら遊びを楽しむ姿を見守り、保育者も仲間になって遊びたい。自分の気持ちや考えを伝えようとする姿を認め、必要に応じて、周りの友だちも興味をもって話を聞くことができるように言葉掛けする。
- 降園時の活動では、みんなで一緒に歌を歌ったり、絵本を見たり、友だちや保育者の話を聞いたりしながら、みんなで集まる楽しさを味わいたい。
- 自分のことを自分でしようとする姿を見守りながら、風邪をひかずに元気に過ごすために大切なこと（手洗い・うがいなど）を一緒に考えるようにする。

イ ものとのかかわり

- 必要な素材や用具などを子どもたちが使いやすい場所に用意しておき、自分のつくりたいものを自由につくることができるように環境を整えておく。
- 自分なりのイメージをもって遊ぶ姿や役になりきって楽しむ姿を大切にし、様々なごっこ遊びがさらに広がっていくように、必要なものなどについて子どもたちと一緒に話し合っていくようにする。
- 長縄跳びや竹馬では、以前よりも上手になった喜びを受け止めながら、繰り返し挑戦したり、友だちと励まし合ったりする姿を大切にしたい。

ウ 自然とのかかわり

- 吐く息の白さや互いの手の冷たさ、寒い中でも体を動かすと温くなる心地よさなど、一緒に冬の季節を味わうようにする。
- チューリップやカブ、ブロッコリーの成長など、様々な発見を楽しむ子どもたちの喜びに共感し、自然の不思議さに気付き、友だちや保育者と伝え合う姿を大切にする。
- 金魚やメダカ、ウサギに餌をあげたり、生き物の冬の過ごし方に興味をもったりする姿を見守り、機会をとらえて、小さな生き物にも生命があることを伝え、大切にしていこうとする気持ちを育てていきたい。